
GOD EATAR **一神機使いと荒神の変わった日常一**

早水 琉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G O D E A T A R I 神機使いと荒神の変わった日常

【Nコード】

N 5 6 5 4 0

【作者名】

早水 琉

【あらすじ】

原作ブレイクのゴッドイーターです。

はじめに注意事項

このストーリーは、原作を元に創っていますが。全く違う方向に向かう可能性大です。原作では死んだ人が死ななかつたり、行方不明になった人がならなかつたりします。いわゆる原作ブレイクです。それが嫌な人は、もどるボタンを連打推奨します。

話の流れは主に、オリ主「いろんな意味でチート」視点で進んでいきます。

アラガミが一部凄く平和的になっております。

内容は

不定期に更新すると思います。

オリ主については、後で追記いたします。

はじめに注意事項（後書き）

頑張って書いていこうと思います。

キャラ設定

【名前】

魂魄煉獄

(こんぱくラグナ)

【コードネーム】

L a g n a

神機：ショートブレード・アサルト（新型可変式）

?銃身：尾弩 イバラキ

刀身：鉄乙女剣

装甲：獣装 陽

制御ユニット：サイレントシューター

強化パーツA：体力強化1

// B：移動強化

トップス：F制式上衣レッド

ボトムス：F制式下衣レッド

詳細：

アラガミに懐かれやすく、特にヴァジユラ種に懐かれやすい。その為3匹のアラガミ（テオ、マータ、ピター）をフェンリルに特例で連れて来ている。

アラガミに懐かれやすい特性から【アラガミ使い】と呼ばれていた。なので、顔

見知りのアラガミが多い。

ゴッドイーターになる前は、外部居住区で暮らしていた。

ペイラー博士とは、知り合い。

名前：テオ

種：ヴァジユラ

詳細：ラグナが連れているアラガミの一匹。

性格は、人懐っこく甘えん坊。

大きさは、子猫ほど。

いつも、ラグナの頭の上に乗っている。

名前：マータ

種：プリビティ・マータ

詳細：ラグナが連れているアラガミの一匹。

性格は、掃除好きで家庭的。ラグナが任務中には、部屋を掃除している。

意外と料理が出来る。

大きさは、普通の猫ぐらい

右肩が定位置

名前：ピター

種：ディアウス・ピター

詳細：ラグナが連れているアラガミの一匹。

基本、無口。

性格は、純粹無垢で意外と主思い。

大きさは、普通の猫ぐらい

左肩が定位置

たまに、抱っこされている。

キャラ設定（後書き）

注意

ラグナの連れているアラガミは人を喰っていません。

質問にあった【リンドウ】ですがゲームの方で生き残っております。詳しくは、ゴッドイーターバーストをプレイしてください。

第1話 【極東支部配属】

支部長室

『支部長、照合中のデータベースから新型神機の適合候補者が見つかりました。』

「そうか、名前は何と言う。」

「……なるほどプレイヤーが前に話していた【アラガミ使い】の子か、さっそく適合試験を受けてもらおうでしょう。」

という訳で俺はフェンリル極東支部に来ている。
アラガミ使いの俺が神機使いか、なんか凄いな。

オペレーター「あ、ラグナさんですね？待ってました。そちらのお荷物は預かっておきますね。それでは適性試験頑張ってください。」

ラグナ「ああ。」

適性試験か、

お、ここか。」

扉を開くとそこは、試験場というより訓練所だった。

ラグナ「ここで適性試験があるのか。」

「長く待たせすまない。」

ラグナ「？」

「さて、ようこそ・・・人類最後の砦『フェンリル』へ。」

ラグナ「最後の砦ねえ。」

「今から、対アラガミ討伐部隊『ゴッドイーター』としての適性試験を始める。」

ラグナ「お、いよいよか。」

「少しリラックスしたまえ。その方がいい結果が出やすい。」

ラグナ「そうだな。」

「心の準備が出来たら中央のケースの前に立ってくれ。」

ラグナ「いよいよ、適性試験か。？ あれが神機か、なんか、アラガミと同じような感じがするな。」

さて、行くか。」

一歩二歩と足を進めていくそして神機がセットされているケースの
前に来た。

ラグナ「？ ああ、ここに腕を置けばいいのか。」

俺はケースに腕を置く、するといきなりケースの蓋がガシャン！と
勢いよく閉じた。

ラグナ「うわ！ イツた！ な、なんだ？！ なんかに凄いいグロい音して
んぞ！ ふう、やっと痛みがひいた。」

と、ケースの蓋が開く。俺は、神機を持ち上げてみた。

ラグナ「意外と軽いんだな。最初見たときは、結構重そうだったの
に。あ、腕輪が付いている。」

すると、神機から黒いモノが腕輪に刺さる。

ラグナ「？ うわ！ 一瞬手が黒くなったような。」

「おめでとう。君が、この支部初の『新型』ゴッドイーターだ。」

ラグナ「初？！」

「適性試験は、これで終了だ。」

ラグナ「これを、試験と言っているのだろうか……。」

「次は適合後のメディカルチェックが予定されている。」

「始まるまでその扉の向こうで待機していてくれ。気分が悪いなどの症状がある場合は、すぐに申し付けるように。」

ラグナ「まあ、至って普通だな。」

「期待しているよ。」

ラグナ「しなくて、いいです（笑）」

俺は、神機を持って扉を出た。

オペレーター「適合おめでとございます。お荷物は、部屋に送っておきますね。あ、こちらの荷物は、渡しておきますね。」

ラグナ「ああ、わかった。」

荷物を受け取る。

えっと、中に入ってるのは？

テオ「ガウ」

あ、テオか。

ラグナ「頭、乗るか？

テオ「ガウ！」

そういうとテオを籠から出して頭に乗せる。

オペレーター「え？アラガミ？」

ラグナ「あゝ、大丈夫だ。」

オペレーター「あ、【アラガミ使い】なんですね。わかりました。」

ラグナ「そういう事だ、じゃあな。」

第1話 【極東支部配属】（後書き）

感想・指摘がありましたら。
遠慮なく報告してください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5654o/>

GOD EATARー神機使いと荒神の変わった日常ー

2010年12月10日06時14分発行